

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第5922543号
(P5922543)

(45) 発行日 平成28年5月24日 (2016. 5. 24)

(24) 登録日 平成28年4月22日 (2016. 4. 22)

(51) Int. Cl.

F 1

F 1 6 C 33/78 (2006. 01)

F 1 6 C 33/78 D

F 1 6 C 19/06 (2006. 01)

F 1 6 C 19/06

請求項の数 2 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2012-205823 (P2012-205823)	(73) 特許権者	000141901
(22) 出願日	平成24年9月19日 (2012. 9. 19)		株式会社ケーヒン
(65) 公開番号	特開2013-228080 (P2013-228080A)		東京都新宿区西新宿一丁目2 6 番 2 号
(43) 公開日	平成25年11月7日 (2013. 11. 7)	(74) 代理人	100071870
審査請求日	平成27年6月3日 (2015. 6. 3)		弁理士 落合 健
(31) 優先権主張番号	特願2012-82332 (P2012-82332)	(74) 代理人	100097618
(32) 優先日	平成24年3月30日 (2012. 3. 30)		弁理士 仁木 一明
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)	(74) 代理人	100152227
			弁理士 ▲ぬで▼島 慎二
		(72) 発明者	大庭 智章
			栃木県塩谷郡高根沢町宝積寺2 0 2 1 - 8
			株式会社ケーヒン 栃木開発センター内
		(72) 発明者	宇佐見 拓也
			栃木県塩谷郡高根沢町宝積寺2 0 2 1 - 8
			株式会社ケーヒン 栃木開発センター内
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 シール付き転がり軸受

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内輪（30）と、それを囲繞する外輪（31）と、これら内、外輪（30，31）間に介装される環状配列の複数の転がり部材（32）と、これら転がり部材（32）群の両側を覆うように前記内、外輪（30，31）間に配設される環状の一对のシール部材（34）とを備えてなり、各シール部材（34）の外周には、前記外輪（31）に固定される取り付けビード（41）を、また各シール部材（34）の内周には、前記内輪の外周面に回転摺動可能に密接するシールリップ（43）をそれぞれ形成した、シール付き転がり軸受において、

前記シール部材（34）の内周側にシールリップ（43）より厚肉で環状のリップ支持部（42）を形成し、このリップ支持部（42）の内周面に突設されるシールリップ（43）は、内輪（30）の外周面に密接する円筒状のシール面（43a）と、このシール面（43a）の内端から前記リップ支持部（42）に達するまでの少なくとも一部が、前記シール面（43a）の内端から内輪（30）の外周面の母線と直交する方向へ起立する内側面（43b）とを有し、前記シール面（43a）の軸方向幅（W）を、該シールリップ（43）の半径方向高さ（H）より大きく設定するとともに、前記リップ支持部（42）の外側面に、前記シールリップ（43）の直上まで食い込む環状の凹部（45）を形成したことを特徴とする、シール付き転がり軸受。

【請求項 2】

請求項 1 記載のシール付き転がり軸受において、

10

20

前記シールリップ(43)を、前記シール面(43a)の内端及び外端からそれぞれ内輪(30)の外周面の母線と直交する方向に起立してリップ支持部(42)の内周面に達する内側面(43b)及び外側面(43c)を有するように形成したことを特徴とする、シール付き転がり軸受。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内輪と、それを囲繞する外輪と、これら内、外輪間に介装される環状配列の多数の転がり部材と、これら転がり部材群の両側を覆うように前記内、外輪間に配設される環状の一对のシール部材とを備えてなり、各シール部材の外周には、前記外輪に固定さ

10

れる取り付けビードを、また各シール部材の内周には、前記内輪の外周面に回転摺動可能に密接するシールリップをそれぞれ形成した、シール付き転がり軸受の改良に関する。

【背景技術】

【0002】

かゝるシール付き転がり軸受は、特許文献1に開示されるように、内圧を異にする二室間の隔壁と、その隔壁を貫通する回転軸との間に介装されるもので、回転軸のスムーズな回転を確保しながら上記二室間での圧力の移動を阻止することができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

20

【特許文献1】特開2004-263734号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、上記特許文献1に記載されるシール付き転がり軸受のシール部材においては、内輪の外周面に密接するシールリップが、内輪の半径方向内方に向かって内輪の外側方へ行くように截頭円錐状に形成されているため、そのシールリップが臨む室に大きな負圧が発生すると、その負圧がシールリップの截頭円錐状の外周面に作用して、シールリップを内輪の外周面から浮き上がらせようとし、シールリップの内輪に対するシール圧力を弱めることになり、軸受内部のグリースが漏れ出す虞が生じる。

30

【0005】

本発明は、かゝる事情に鑑みてなされたもので、シールリップに大きな負圧や正圧が作用しても、シールリップの倒れを防いで内輪に対するシール圧力を正常に維持し、軸受内部のグリースの漏出を防ぐことができるようにした、構造簡単な前記シール付き転がり軸受を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するために、本発明は、内輪と、それを囲繞する外輪と、これら内、外輪間に介装される環状配列の複数の転がり部材と、これら転がり部材群の両側を覆うように前記内、外輪間に配設される環状の一对のシール部材とを備えてなり、各シール部材の外周には、前記外輪に固定される取り付けビードを、また各シール部材の内周には、前記内輪の外周面に回転摺動可能に密接するシールリップをそれぞれ形成した、シール付き転がり軸受において、前記シール部材の内周側にシールリップより厚肉で環状のリップ支持部を形成し、このリップ支持部の内周面に突設されるシールリップは、内輪の外周面に密接する円筒状のシール面と、このシール面の内端から前記リップ支持部に達するまでの少なくとも一部が、前記シール面の内端から内輪の外周面の母線と直交する方向へ起立する内側面とを有し、前記シール面の軸方向幅を、該シールリップの半径方向高さより大きく設定するとともに、前記リップ支持部の外側面に、前記シールリップの直上まで食い込む環状の凹部を形成したことを第1の特徴とする。尚、前記転がり部材は、後述する本発明の実施形態中のボール32に対応する。

40

50

【 0 0 0 7 】

また本発明は、第 1 の特徴に加えて、前記シールリップを、前記シール面の内端及び外端からそれぞれ内輪の外周面の母線と直交する方向に起立してリップ支持部の内周面に達する内側面及び外側面を有するように形成したことを第 2 の特徴とする。

【 発明の効果 】

【 0 0 0 8 】

本発明の第 1 の特徴によれば、シール部材のリップ支持部の内周面に突設されるシールリップは、円筒状で軸方向幅がシールリップの半径方向高さより大きいシール面が内輪の外周面に支持されることになり、しかもシール面の内端から前記リップ支持部に達するまでの少なくとも一部が、前記シール面の内端から内輪の外周面の母線と直交する方向へ起立する内側面を有するので、大なる剛性を発揮することができ、したがってシールリップに、シール部材の内外側の圧力差による軸方向荷重が加わっても、倒れることがなく、シール面の内輪外周面への良好な密接状態を維持し、軸受内部のグリースの流出を確実に防ぐことができ、構造簡単で耐久性の高いシール付き転がり軸受を提供することができる。

【 0 0 0 9 】

また、リップ支持部の外側面に、シールリップの直上まで食い込む環状の凹部を形成したことで、リップ支持部の、シールリップに対する支持剛性を前記凹部の深さによって適度に和らげることができ、それによりシールリップ及び内輪間の摩擦トルクを調節することができ、内輪の許容回転トルクの変化に対応することができる。

【 0 0 1 0 】

また本発明の第 2 の特徴によれば、シールリップを、そのシール面の内端及び外端からそれぞれ内輪の外周面の母線と直交する方向に起立してリップ支持部の内周面に達する内側面及び外側面とを有するように形成したことで、シールリップに、シール部材の内外側の圧力差による軸方向荷重が加わると、その軸方向荷重は、シールリップに軸方向の剪断力として作用することになり、断面方形のシールリップは、上記剪断力に対して大なる剛性を発揮して、その倒れを確実に防ぐことができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 1 】

【 図 1 】 本発明の参考形態に係るシール付き転がり軸受を備えるエンジンの吸気制御装置の断面図。

【 図 2 】 図 1 の 2 部拡大図。

【 図 3 】 本発明の実施形態を示す、図 2 との対応図。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 2 】

本発明の実施の形態および参考形態を、添付図面に示す本発明の好適な実施例および参考例に基づいて以下に説明する。

【 0 0 1 3 】

図 1 において、自動二輪車、自動車等の車両用エンジンの吸気系の一部を構成するスロットルボディ 1 は、その中心部にエンジンの吸気ポートに連なる吸気道 2 を有する。その吸気道 2 を開閉するバタフライ型のスロットル弁 3 の弁軸 3 a がスロットルボディ 1 の左右両側壁に一对の転がり軸受 4、5 を介して回転自在に支承される。その際、特に左側の転がり軸受 5 はシール付き転がり軸受とされ、それについては後に詳述する。

【 0 0 1 4 】

スロットルボディ 1 の右側壁には、スロットル弁 3 の右端部及び転がり軸受 4 を覆うキャップ 6 が嵌装される。また弁軸 3 a の左端部は、スロットルボディ 1 の左側壁外方に突出しており、その突出端部に、スロットル弁 3 を開閉駆動するための電動モータ 8 が減速ギヤ機構 9 を介して連結される。減速ギヤ機構 9 は、電動モータ 8 の出力軸 10 に固着される 1 次駆動ギヤ 11、中間軸 15 に回転自在に支承されて 1 次駆動ギヤ 11 と噛合する 1 次従動ギヤ 12、この 1 次従動ギヤ 12 の一側に一体に形成される 2 次駆動ギヤ 13、弁軸 3 a の左端部に固着されて 2 次駆動ギヤ 13 と噛合するセクタ型の 2 次従動ギヤ 14

とで構成され、電動モータ 8 の出力軸 10 の回転を 2 段階減速して弁軸 3 a に伝達して、スロットル弁 3 を開閉し得るようになっており、弁軸 3 a、出力軸 10 及び中間軸 15 は、これらの軸線が前記吸気道 2 の軸線と直交して互いに平行に並ぶように配置される。

【 0 0 1 5 】

2 次従動ギヤ 14 には、これをスロットル弁 3 の閉じ方向に付勢する閉じばね 17 が接続される。また弁軸 3 a には、デフォルトレバー 20 が 2 次従動ギヤ 14 に隣接して回転自在に支承されている。このデフォルトレバー 20 には、これをスロットル弁 3 の開き方向に付勢する、閉じばね 17 よりばね力が大なる開きばね 22 が接続される。デフォルトレバー 20 は、開きばね 22 の付勢力によりスロットル弁 3 の開き方向に回転するとき、2 次従動ギヤ 14 を介してスロットル弁 3 を開き方向に駆動することになるが、このときデフォルトレバー 20 を受け止めてスロットル弁 3 のアイドル開度からの開きを所定のデフォルト開度で停止させるデフォルトストッパボルト（図示せず）がスロットルボディ 1 に取り付けられる。而して、エンジンの運転中、電動モータ 8 が通電不能になったときは、開きばね 22 の付勢力により、スロットル弁 3 はデフォルト開度に保持される。これにより、整備工場までの車両の微速走行を可能にする吸気量をエンジンに供給することができる。

【 0 0 1 6 】

スロットルボディ 1 の左側壁には、上記電動モータ 8 及び減速ギヤ機構 9 等を収容する制御ケース 24 が一体に形成されており、この制御ケース 24 の左端面に、その開口部を閉鎖する合成樹脂製のケースカバー 25 がボルト 26 により接合される。このケースカバー 25 には、弁軸 3 a の回転角度をスロットル弁 3 の開度として検出するスロットルセンサ 27 が付設される。またケースカバー 25 には、制御ケース 24 内の結露を防ぐべく、その内部の換気のための通気孔（図示せず）が設けられ、したがって制御ケース 24 内は常に大気圧となっている。

【 0 0 1 7 】

さて、図 2 を参照して、弁軸 3 a を支承する、制御ケース 24 側のシール付き転がり軸受 5 について説明する。

【 0 0 1 8 】

シール付き転がり軸受 5 は、内輪 30 と、それを囲繞する外輪 31 と、これら内、外輪 30、31 間に介装される環状配列の複数のボール 32、32... と、これらボール 32、32... 群を保持するリテーナ 33 と、ボール 32、32... 群をその両側より覆うように内、外輪 30、31 間に配設される環状の一对のシール部材 34、34 とより構成され、ボール 32、32... 群周りには潤滑用のグリース（図示せず）が塗布される。

【 0 0 1 9 】

一方、スロットルボディ 1 の、制御ケース 24 側の側壁 1 a には、弁軸 3 a が貫通する軸孔 35 と、この軸孔 35 に制御ケース 24 側を向いた段部 36 を介して同軸状に連なる軸受ハウジング 37 とが形成されており、上記段部 36 には、環状の逃げ凹部 38 が設けられる。

【 0 0 2 0 】

上記軸受ハウジング 37 にシール付き転がり軸受 5 の外輪 31 が圧入により装着され、内輪 30 は弁軸 3 a の外周に圧入により装着される。その際、前記逃げ凹部 38 により、内輪 30 と側壁 1 a との接触が回避される。

【 0 0 2 1 】

前記環状のシール部材 34 はゴム又はエラストマ製であって、板状壁 40 と、この板状壁 40 の外周部からボール 32、32... 群側に膨出する環状の取り付けビード 41 と、板状壁 40 の内周部からボール 32、32... 群側に膨出する環状で厚肉のリップ支持部 42 と、このリップ支持部 42 の内周面に突設されるシールリップ 43 とより構成され、リップ支持部 42 から取り付けビード 41 にかけて鋼板製の補強環 44 が埋設される。

【 0 0 2 2 】

前記取り付けビード 41 は、外輪 31 の内周面に設けられる環状の取り付け溝 39 に嵌

10

20

30

40

50

合して固定される。

【 0 0 2 3 】

また前記シールリップ 4 3 は、一定の締代をもって内輪 3 0 の外周面に密接する円筒状のシール面 4 3 a と、このシール面 4 3 a の内端及び外端から、それぞれ内輪 3 0 の外周面の母線に直交する方向に起立してリップ支持部 4 2 内周面に達する内側面 4 3 b 及び外側面 4 3 c とを有する断面方形に形成される。上記内側面 4 3 b 及び外側面 4 3 c がそれぞれ内輪 3 0 の外周面の母線に直交する方向に起立するということは、内側面 4 3 b 及び外側面 4 3 c が内輪 3 0 の中心軸線 X に直交する方向に起立ということもできる。

【 0 0 2 4 】

上記シールリップ 4 3 において、シール面 4 3 a の軸方向幅 W は、シールリップ 4 3 の半径方向の高さ H より大きく設定され、シールリップ 4 3 の断面は軸方向を長辺とする長方形をなしている。

10

【 0 0 2 5 】

このシールリップ 4 3 の外側面 4 3 c は、板状壁 4 0 の外側面 4 0 a と面一となるように、又はその近傍に位置し、内側面 4 3 b はリップ支持部 4 2 の軸方向中間部に位置する。したがって、シールリップ 4 3 は、リップ支持部 4 2 の軸方向中央部より内輪 3 0 の外側方へオフセットしており、前記補強環 4 4 の内周端は、このシールリップ 4 3 の弾性を損わないよう、リップ支持部 4 2 の外周部に位置している。

【 0 0 2 6 】

こうして内輪 3 0 及び外輪 3 1 間に配設される左右一对のシール部材 3 4 , 3 4 は、対称的な構造を有しており、シール付き転がり軸受 5 を軸受ハウジング 3 7 及び弁軸 3 a に装着する際、その装着方向を規制せずに済むようになっている。

20

【 0 0 2 7 】

次に、この参考形態の作用について説明する。

【 0 0 2 8 】

エンジンの運転中、スロットル弁 3 は、電動モータ 8 により減速ギヤ機構 9 を介して駆動され、吸気道 2 を開閉して、エンジンの吸気量を制御する。その際、スロットル弁 3 の弁軸 3 a は、左右一对の転がり軸受 4 , 5 に支承されているので、弁軸 3 a の回転、即ちスロットル弁 3 の開閉動作をスムーズに行うことができる。しかも、特に制御ケース 2 4 側のシール付き転がり軸受 5 は、ボール 3 2 、 3 2 ... 群の両側を覆う一对のシール部材 3 4 , 3 4 を備えているので、それらシール部材 3 4 , 3 4 によって、吸気道 2 と制御ケース 2 4 内との間で圧力の移動を阻止すると共に、シール付き転がり軸受 5 内部のグリースの流出を防ぐことができる。

30

【 0 0 2 9 】

ところで、エンジンの運転中は、その吸気脈動により、吸気道 2 内では正圧と負圧とが交互に発生し、その脈動圧力は、軸孔 3 5 及び逃げ凹部 3 8 を経て、シール付き転がり軸受 5 における吸気道 2 側のシール部材 3 4 の外側面に作用する。ここで、制御ケース 2 4 内は常に大気圧となっているので、シール付き転がり軸受 5 の吸気道 2 側のシール部材 3 4 には、上記脈動圧力（正圧及び負圧）と大気圧との差圧に伴なう外向きの軸方向荷重 F 1 及び内向きの軸方向荷重 F 2 が交互に加わって、特にシール部材 3 4 中、最も柔軟なシールリップ 4 3 を撓ませようとする。

40

【 0 0 3 0 】

而して、シールリップ 4 3 は、円筒状で軸方向幅 W がシールリップ 4 3 の半径方向高さ H より大きいシール面 4 3 a が内輪 3 0 の外周面に支持されているので、大なる剛性を発揮することができ、したがってシールリップ 4 3 に、シール部材 3 4 の内外側の圧力差による軸方向荷重が加わっても、倒れることがなく、シール面 4 3 a の内輪 3 0 外周面への良好な密接状態を維持し、軸受 5 内部のグリースの流出を確実に防ぐことができ、構造簡単で耐久性の高いシール付き転がり軸受 5 を得ることができる。

【 0 0 3 1 】

また特に、シールリップ 4 3 は、そのシール面 4 3 a の内端及び外端からそれぞれ内輪

50

３０の外周面の母線と直交する方向に起立してリップ支持部４２の内周面に達する内側面４３ｂ及び外側面４３ｃを有して断面方形をなしているため、上記外向きの軸方向荷重Ｆ１及び内向きの軸方向荷重Ｆ２は、シールリップ４３に軸方向の剪断力として作用することになり、シール部材３４の厚肉のリップ支持部４２に支持される断面方形のシールリップ４３は、上記剪断力に対して大なる剛性を発揮して、その倒れを確実に防ぐことができる。

【００３２】

次に、図３に示す本発明の実施形態について説明する。

【００３３】

この実施形態では、シール部材３４におけるリップ支持部４２の外側面に、前記シールリップ４３の直上まで食い込む環状の凹部４５が形成される。その他の構成は、参考形態と同様であるため、図３中、参考形態と対応する部分には同一の参照符号を付して、重複する説明を省略する。

10

【００３４】

この実施形態によれば、リップ支持部４２の、シールリップ４３に対する支持剛性を前記凹部４５の深さによって適度に和らげることができ、それによりシールリップ４３及び内輪３０間の摩擦トルクを調節することができ、スロットルボディ１等の仕様変更時、弁軸３ａの許容回転トルク、即ちそれに圧入結合される内輪３０の許容回転トルクの変化に対応することができる。

【００３５】

本発明は上記実施例に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々の設計変更が可能である。例えば、シール付き転がり軸受５は、エンジンの吸気制御装置以外の各種機器において、内圧を異にする二室間の隔壁を貫通する回転軸の支持用に用いることができる。また本発明は、転がり部材としてローラを用いたローラ軸受にも適用可能である。

20

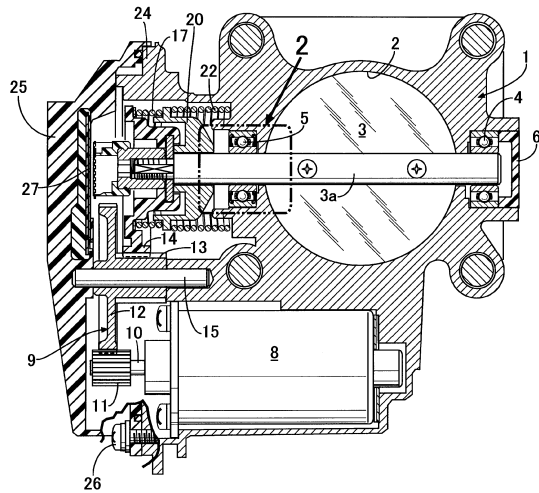
【符号の説明】

【００３６】

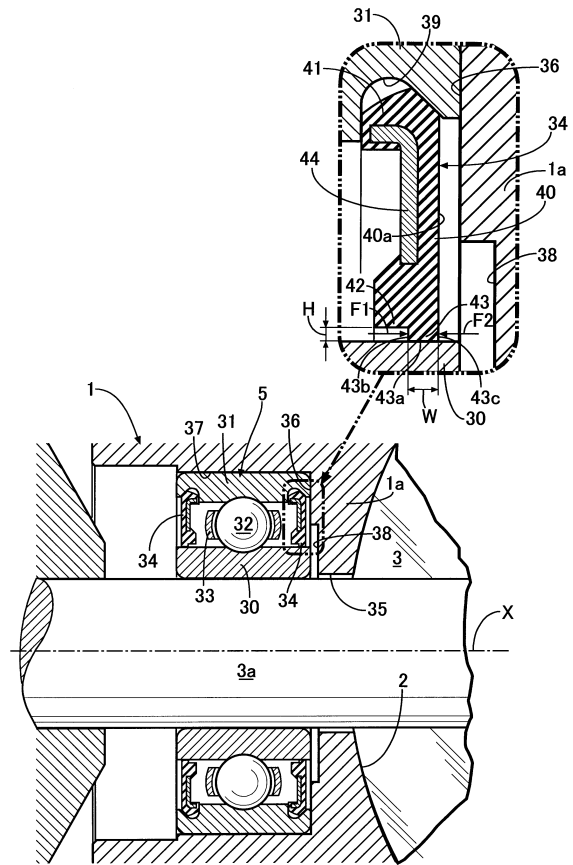
５・・・シール付き転がり軸受
 ３０・・・内輪
 ３１・・・外輪
 ３２・・・転がり部材（ボール）
 ３４・・・シール部材
 ４１・・・取り付けビード
 ４２・・・リップ支持部
 ４３・・・シールリップ
 ４３ａ・・・シール面
 ４３ｂ・・・内側面
 ４３ｃ・・・外側面
 ４５・・・凹部

30

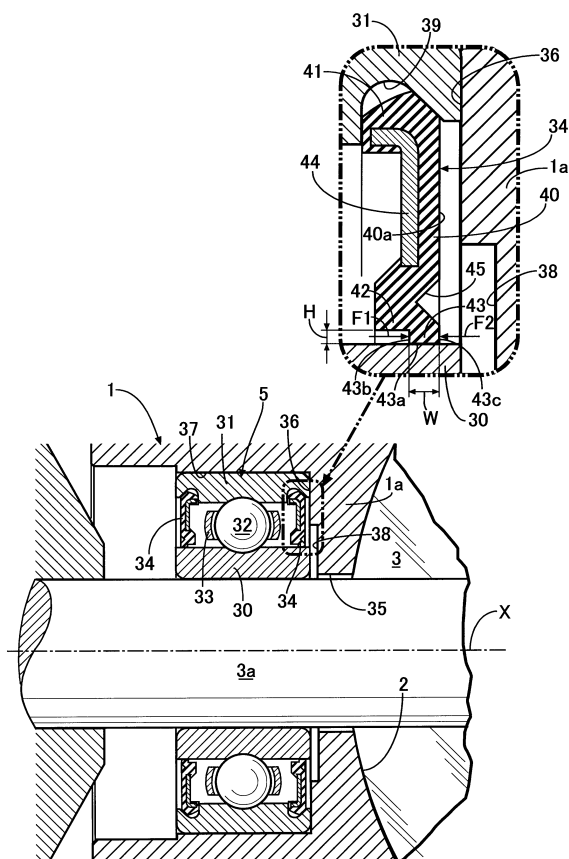
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

審査官 小川 克久

(56)参考文献 特開 2 0 1 1 - 1 2 7 7 0 2 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

F 1 6 C	3 3 / 7 2 - 3 3 / 8 2
F 1 6 C	1 9 / 0 0 - 1 9 / 5 6
F 1 6 C	3 3 / 3 0 - 3 3 / 6 6